

愛荘町の指定文化財③

木造

薬師如来坐像

島川薬師堂（町立歴史文化博物館）



薬師如来坐像

平成十一年十二月に町文化財に指定された木造薬師如来は、像高五六cm、一木造りで、左手に薬壺を持ち、右手は胸前で施無畏印を結んでいます。像の大部分は針葉樹材の堅一材より彫り出しており、内刳りはされていません。眼は彫り出して玉は入れない穏やかな表情の仏像です。

一見、体形が特徴的であるのは、頭部に大粒の螺髪を載せており、いかり肩のがっちりした上体のうえ、その頭部が前方に突き出しているため、全体のバランスが取れておらず、そのうえ質感を感じるためでしょう。彩色はほぼされておらず、素地のままで、頭部の螺髪と唇に一部着色が見られます。



島川薬師堂

また、背中を中心に鑿痕が多く残されているのも特徴です。見た目に平安前期の仏像に近い作風を感じますが、像底に墨書銘が在り、文明九年（一四七七）の造像であることがわかります。さらに、「江州愛知郡において、野中寺大蔵これを作る」と記されています。

この薬師如来の由来についてはいくつかの伝承が在り、近在の道玄寺か、今は失われている大円寺の仏像であったものが、近江に侵攻する織田信長の災禍から逃れるため、井戸に埋められ、後に島川神社に移されてきた、あるいは、もともと神社の本地仏（神仏習合で祀られた仏）として祀られていたものといわれています。

大友暢（歴史文化博物館）

コロナ禍の中でしたが、昨年11月15日、滋賀県町村議会議長会の主催で、町議会広報研修会が開催され、広報委員全員が研修を受けました。

会場は、多賀町中央公民館「多賀結いの森」で、非接触式検温カメラが設置され感染対策がされる中、講演や県内6町の「議会だより」のクリニックがありました。

学んだのは、「町民の方に読んでもらえる、読みたくなる議会だより」を編集するためには、「議会の様子の伝え方に様々な工夫と刷新が必要」ということでした。当町の議会だよりを評価してもらうことや他町の議会だよりを見ることも、良い勉強でした。

学んだことを活かし、「読んでもらえる、読みたくなる議会だより」のために、努力したいと思います。

瀧 すみ江 記

【発行責任者】

議長 河村 善一

【広報常任委員会】

委員長 森野 隆

副委員長 村西 作雄

委員 澤田 源宏

委員 村田 定

委員 伊谷 正昭

委員 瀧 すみ江

編集後記